

平成29年度一般会計予算 18億5000万円で編成

平成29年度当初予算の概要をお知らせします。昨年は厳しい財政状況の中、和紙の里ハブ化構想等で多額の予算編成となりましたが、本年度の一般会計予算は総額18・5億円となり、前年度比2億5000万円減額となりました。

本年度予算は、「東秩父村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた「細川紙」技術者育成和紙による交流拡大、結婚・出産・子育て事業に重点を置いた予算となっており、また、「過疎地域自立促進」として、産業の振興、児童・高齢者の福祉および医療の充実など、村民の生活の利便性や充実に図る目的となっています。

歳入

歳入は、税金などの「自主財源」と国や県に頼った「依存財源」の大きく2つに分けられます。「自主財源」が多いほど、村独自のサービス、将来に向けて積立を行うなど行政の自主性と安定性が確保されます。

東秩父村は、「自主財源」が全体の25%で、依然として財源の多くを「依存財源」が占めている状況です。

一般会計予算における歳入は、昨年度と比較して、個人住民税や固定資産税などの村税は200万円増額し2億4149万円となり、また、村の骨格である地方交付税は3700万円の増額となり10億5000万円を見込みました（歳入総額の56・8%）。

また、財源不足を補うため、村

歳出

歳出は、和紙の里ハブ化が終了し、普通建設事業費等が減額となったものの、人件費、物件費、補助費等で増額となりました。

性質別歳出は「義務的経費」と「投資的経費」、「その他の経費」に分けることができます。「義務的経費」は人件費、扶助費、公債費で構成され、支出が義務づけられている経費で、前年度と比較して3467万円の増額となりました。

「投資的経費」は、道路や公共施設の建設など行政水準の向上にかかる経費で、普通建設事業費、災害復旧事業費から構成されます。今年度の投資的経費

主要事業

債8000万円の借入と、財政調整基金等から1億5080万円を繰り入れることとしました。

は1億3484万円で、前年度と比較して3億7032万円減額しました。

平成29年度は、先にも述べた「東秩父村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の事業展開が主だった柱となっています。細川紙の手続き和紙技術を未来・後世に繋いでいくため、後継者育成事業に力を注ぎます。そこから、定住促進、「防災・医療・雇用対策・学校や地域」を新しい時代の要望に応える事業へと展開していきます。

また、「過疎地域自立促進」として、人口の著しい減少により地域社会における活力が低下し、生産機能、生活環境の整備等が低下している地域について、自立促進を図り、住民福祉の向上、雇用の増大等を目的として

会計別予算額

(単位：千円、%)

会計名	平成29年度	平成28年度	増減額	伸び率	
一般会計	1,850,000	2,100,000	△250,000	△11.9	
特別会計	国民健康保険	500,000	500,000	0	0.0
	介護保険	461,900	472,500	△10,600	△2.2
	合併処理浄化槽事業	49,300	49,000	300	0.6
	後期高齢者医療	34,000	34,000	0	0.0
	簡易水道事業	109,000	86,400	22,600	26.2
	計	1,154,200	1,141,900	12,300	1.1
予算総額	3,004,200	3,241,900	△237,700	△7.33	

特別会計

本村が有する地域資源を最大限活用して地域の自給力を高めるとともに、住民が誇りと愛着を持ち活力に満ちた地域社会を実現する村政を執行します。

村では、一般会計とは別に、

特定の事業を行う場合に、そこから発生する特定の収入を支出に充てて独立してやりくりする特別会計があります。国民健康保険特別会計や簡易水道事業特別会計など5つの特別会計の予算総額は11億5420万円で、前年度と比較して1230万円の増額となりました。